

のどけからまし

望月苑巳

さくらは下を向いて咲く
そろりと

人に見上げてもらいたくて
静かに

ぼくの心から出ていってしまった人も
そろりと
咲いたことがありましたね

本郷三丁目駅の
クジラの目のような出口から
春も咲きました
うるうると目頭を押さえて
一歩、二歩、三歩
電車が散ってしまったも
つまづきながら咲きました

あれから長い時が
短い慟哭を越えてゆきましたね
けれど伊勢物語のように
春の心は のどけからまし
というわけにはいかなかったのです

夜になって
夜鬼がでしゃばって
さくらの枝がしなりました
きつと

そんな過去は折ってしまえと思ったのかも知れませんが

そろりと

地下鉄はぼくを呑み込んで

クジラになりました

*世の中に絶えて桜のなかりせば春の心はのどけからまし 在原業平（伊勢物語八十二段）